



新郷ありがとう小学校

学校だより第3号
平成28年4月20日
あわら市新郷小学校

HP…<http://awara-kyouiku.jp/~shingou/>

何かしたい…熊本地震

4/14(木)21:26 に最大震度7(益城町)を記録した地震を始まりに、震度6強・6弱など強い地震が続く熊本大地震。過去に経験したことのない長期間にわたる揺れのくり返しに、被災地のみなさんの心身のダメージは限界に近づいているのではないのでしょうか。昨年度熊本県の小学校に勤務した知人に確認しましたが、勤務校体育館が避難所となっている程度の情報しかなくもどかしい思いをしているとのことでした。自分も、今は、コンビニの募金箱にわずかなお金を入れ続けるぐらいしかできていません。

これから、どんな活動ができるのかについて情報を集め、子どもたちと考えていきたいと思えます。この件について、何かできる情報があれば教えていただければと思います。よろしくお願ひします。

★ありがとうの壁

宮前公文・北本堂方面の道路上に風除け壁が秋から春にかけて設置されます。中浜の通学路にも設置されます。これまでの勤務校でこのような経験はなく、心温まる壁にみえます。ありがとうございます。



児童と、板にさわってみると、あたたかさが感じられました

★「おはよう～ごいま～す」ありがとう

18(月)朝、児童クラブ側のフェンス付近にいと「先生おはよう～ごいま～す」。声の方に顔を向けると、遠目に自転車が2台。今春卒業した中学1年生のようです。手を振りながら、ゆっくりとバス乗り場へ向かう姿に気持ちが晴れやかになりました。こんなに離れているのに見つけてくれてありがとう。

第1回新郷小・本荘小統合準備会議

4/18(月)夜に、市教委、両校関係者(PTA・区長・学校)をメンバーに開催されました。PTA から龍田会長、堂島・西正副会長、江畑会計さん、4人の区長さん、校長、教頭が出席しました。12月をめどに、統合小学校の教育計画や学校教育目標、PTA 組織運営、通学関係、休校に伴う記念事業計画等の検討を進めることが確認されました。

大代教育長は、統合がスムーズにされること、統合によって教育面の充実が図られることを目標に検討すること、移る側の新郷小とともに受け入れる側の本荘小関係者の方々も、児童・保護者が、不安少なく入っていけるよう準備することなどを話されました。

新郷小学校スケッチ

縦割り班結成集会

あったかいつながりは新郷小の強み



楽しく自己紹介

全員で合唱「夢の風船」



フラッグフットボール



進行係ありがとう

ビバリー・イエー先生と給食

ALTの先生は、新郷小学校へ来ることを楽しみにしているそうです。給食も子どもたちと同席で、ふれあいを深めています。



毎日の清掃



学力・体力上位の福井県の教育を探るため他県から派遣されている教員の多くが、子どもたちのすばらしさの1つに無言清掃を上げています。今年は、清掃時間中の音楽をなくすことで、床拭き時のタタタの足音、掃き掃除時のシャッシュンとほうきを使う音等、真面目に取り組む自分が出す音を意識するようにしています。静かな中に心地よい音が聞こえます。

強風のいたずら

4/17(日)
中庭に飛ばされた一輪車・プランター



玄関に吹き込んだパンジーの花びら

変わる…どんな学校であってほしいか考える

月1回(4月は3回)の職員会議では、翌月のさまざまな教育活動の内容について話し合われます。

4/18(月)の職員会議では、「目指す学校像」(児童に、保護者に、地域に、教職員にとってどんな学校にしたいのか)について、教職員全員で考えました。

児童にとって	※教職員が考えたことの1部
・楽しい(わかる、認められる)場	・安心できる場
・できた喜び 分かる喜びを感じることでできる場	
・みんなと一緒に何かを作りあげる(する)楽しさや嬉しさを知る場	
・安心して、自己実現ができる場	・勉強する場
・楽しい、居場所がある、落ち着く場	
・夢を見る、かなえる場	・友だちと遊び話し合う場
・自己肯定感、自己有用感が育つ場	
・お互い成長できる場	・生活リズムをつける場
・みんなと遊べる場	・助け合う力をつける場
・思い合う心を育てる場	・社会を学ぶ場
保護者にとって	
・安心できる 安心してまかせることができる場	
・信頼できる場	・気楽に足を向けられる場
・子どもの個性を伸ばせる場	
・子どもが楽しんで喜んで通ってくれる場	
・子どもを通して成長していく場	
・子どもが満足感を持っている場	
・子どもの悩みを話せる場	
・子どもの良いところを話せる場	
・教職員とともに子どもについて考える場	
地域にとって	
・身近な誇れる場	・つながる場
・いろんな世代の人たちと交流できる場	
・地域の未来を託せる子どもを育てる場	
・地域人材を育てる場	
・地域の拠点となる場	中心となる場 活性化 元氣
教職員にとって	
・のびのびと仕事ができる場	・自分もともに成長する場
・自己実現の場	・自分の能力を高める場
・地域に貢献する場	・子どもの未来を育てる場

居場所としての新郷小学校をはっきりと意識できれば、そうなるために教職員としてどうあったらいいか、目指す教職員像が見えてきます。「明るく笑顔になれる(会える)場所」にすることを考えれば、まず自分が明るい笑顔で楽しい話をする必要があることに気がきます。今の自分の良さとともに、力不足の部分がわかります。「どんな学校にしたいか」をはっきりさせることが、自分を変えるエネルギーになり、いい意味での学校の変化となると思います。

これまで、「こころひろく かしくく たくましく」の児童像について、行動面、学力面で、子どもがこうあって欲しいとの目標を強く意識し、授業を中心に日々の教育活動に取り組んできました。子どもたちの素直な取り組み、保護者の家庭での温かい励ましや指導もとれない、子どもたちの成長に、喜びを実感することも多くありました。反面、そのことが学校をつらい場とすることもありました。

「どんな学校であってほしいか」をきっかけに、わたしたち教職員が変わろうとすることが、児童の成長へつながると思って努力していきます。 つづく

「愛」…子の心を受ける親心

わたしの死んだ母親は、子どものころ、よく漢字の話をしてくれました。「二階の女が気にかかる」「二貝の女が木にかかる」→**櫻**—今は「桜」と書きますが、そう教えてくれました。

その母が、「愛」という字は「**心を受けてノ**をつけよ」と教えてくれました。弟をいじめたとき、「おまえ、兄さんだろう。弟の心を受けてノをつけてやりなさい。家族はおたがいに愛情によって結ばれるんだから」「**愛**」というのは、**心を受けてノをつけるんだ**ということです。

子どもが「腹、へった」と帰ってきたら、まずその心を「ノ」をつけて受けます。「腹、へったノ」かんたんなことです。これは、子どもの心に共感するということです。別にノをつけなくてもかまいませんが、ともかく、そうやって心を受けてやります。

「腹、へったあ」と帰ってきたら、「腹、へったノ？」こういって子どもは、「うん、ラーメンでも食べようかな」そういいますから、「ラーメン、食べるノ？」すると子どもは「じゃ、つくるかな」と自分でつくって食べようとします。そうしたら、「自分でつくるノ？」それを、「ラーメン？ トンガリコーン？ ボンカレー？ パン？ ポテトチップス？」

機関銃のようにあびせるから、子どもは自分で考えることをせず、「うん」というだけになってしまう。

親は、子どもが自分で考え、自分で行動するようにしむけてやればいいんです。

「今日、先生に叱られちゃった」と子どもがいうと、「おまえ、またなんか悪いことしたんだろう。まったくおまえはしょうがないんだから。忘れもの？ 私語？ ロゴたえ？ カンニング？ 授業でもサボったのかい？ そうだ、そうじ当番、サボったのかい。それともテストの点、悪かったのかい。まったく勉強しないんだから」。

「今日、先生に叱られちゃった」といったら、「先生に叱られたノ」とノをつけて受けてやればいいんです。そうすると子どもは、「うん、テストの点が悪かったんだ」「テストの点悪かったノ」と「ああ、勉強しなかったからな」「勉強しなかったからなノ」「うん、すこしやらなきゃア」とちゃんと自分で反省する。

心を受けるというのは、なにも子どもに対してだけでなく、愛する夫に対しても同じことです。夫が「今日、課長とけんかしちゃった」と話しかけてきたとき、心を受けてノをつける式にやれば「課長さんとけんかしちゃったノ」「ああ、おれもまずかったんだ」「あなたがまずかったノ」「うん。これから少しゴマすってみることにするよ」「これからゴマするノ」「ああ、早く出世しなくちゃあ。隣の山田さんのてまえ、おまえも恥ずかしいだろうからな。おい、今夜は早く寝よう」。これで夫婦円満です。

余談になりましたが、もともと子どもは考える力・自立する力をもっているのです。過保護は、その力を衰えさせます。子どもの自立する力をじょうずに引き出すこと、これがしつけの秘訣です。

家本芳郎コラム「言いたい放題」 より